

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)	良くなる やや良くなる	—	—
		商店街（代表者）	・政府や日銀の政策がぶれなければ、徐々にデフレから抜け出せ、一歩前に進むのではないかと。
		コンビニ（店長）	・帰宅途中の来店時間のピークが少しずつ遅くなっている。夕夜間の弁当、おにぎり、ファストフードの販売が増加している。
		衣料品専門店（経営者）	・来客数、販売量ともに低調。
		住関連専門店（経営者）	・景気は多少とも良くなっているとの報道や、一般消費者にもそういった動きがみられるので、今後に期待したい。
		タクシー運転手	・四国霊場開創1200年の今年は、お遍路さんも増え、今より良くなるとみている。
		競艇場（職員）	・8月のお盆レースを控え、今後やや良くなるのではないかと。
	変わらない	商店街（事務局長）	・夏頃には消費税増税の影響も落ち着くと予想していたが、もう少し時間がかかると感じている。
		商店街（代表者）	・地方経済の回復にはまだ時間を要する。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・来店客数が減少傾向にある。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・予約が低調。予約をしない当日購入のお客が増えており、見込みが立てにくい。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・景気が低迷したまま、何も変わらない。例年、8月の夏祭りが終われば、売上が冷え込む。
		百貨店（営業担当）	・来店客数は減少傾向にあるが、固定客の購買状況が堅調に推移しており、全体では変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・4～5月は消費税増税の影響による売上減少は想定内に納まるも、6～7月のマイナスは想定を上回っている。8月以降も厳しい状況が続くとみている。
		百貨店（営業推進）	・消費税増税の影響がまだ続いている。
		スーパー（店長）	・猛暑だった昨夏は、客数、販売面ともにマイナスになった。今年も高温の日が続くようなら販売面は苦戦する。
		スーパー（財務担当）	・今後、消費税率引上げによる負担増は消費者行動に徐々に影響してくる。
		コンビニ（総務）	・お盆以降の気温が下がると、飲料等の売行きが悪くなる可能性がある。
		衣料品専門店（経営者）	・売上は気温に大きく左右される。
		衣料品専門店（総務担当）	・顧客の節約志向から単品買いが増えている。消費者心理に変化はなく、景気が良くなるとは思えない。
		乗用車販売店（従業員）	・消費税増税後の回復は当分ない。
		乗用車販売店（従業員）	・販売量の落ち込みは年末まで続きそうだ。
		乗用車販売店（従業員）	・消費者の動きは鈍く、しばらくは厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・先の動きが良くなると予想できない。
		乗用車販売店（役員）	・消費税増税で、4～7月の新車受注が落ち込んでいる。10月以降の新型車投入までは大きな動きもなく、上半期は難しいと判断している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・消費税増税の影響は薄らいできたが、消費に対する慎重な姿勢は変わらない。
		その他飲食〔ファストフード〕（経営者）	・良くなる要素がない。
		観光型旅館（経営者）	・8～10月の予約状況は前年並みにとどまり、増加要因はない。
		都市型ホテル（経営者）	・8月はよさこい祭りなどイベントが多いが、予約状況は例年並みである。
		旅行代理店（支店長）	・関西圏テーマパークの新アトラクションオープン等で旅行への関心が高まっている。しかしガソリンの高値が続いていることから、マイカー利用の近場旅行の減少が懸念される。
		通信会社（企画）	・高額商品の引き合いは続くとみているが、「良くなる」と言えるほど顕著な動きが現れるとは考えられない。
		通信会社（営業担当）	・労働力不足が深刻である。
		観光遊園地（職員）	・ガソリン等、燃料価格の高騰が景気回復の妨げになる。
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況から、3か月先も現状とあまり変わらない。

		美容室（経営者）	・顧客の節約志向は根強く、消費マインドが低い状態が続いている。
		住宅販売会社（従業員）	・現状の来客数が3か月先に売上に反映されることから、良くなるとは考えられない。
やや悪くなる		商店街（代表者）	・消費税増税の影響は、販売額の下落率は小さいものの長引いている。下落が長く継続している。地方の商店街は今後も大変厳しい状況が続く。
		スーパー（企画担当）	・燃料価格高騰による配送費上昇が商品価格の値上げにつながると、一般消費者の消費マインドの低下に拍車をかける。
		スーパー（統括担当）	・消費税増税の影響は一段落していると言われるが、これから消費者の生活面に少しずつ影響を与えていこう。
		コンビニ（店長）	・繁忙期の夏場としては売上、来店客数が頭打ちの状態、今後の好転要因にも乏しい。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・年間を通じて7月と8月は、年末に次いで売上が伸びる時期なので、その先は少し落ちる。
		スナック（経営者）	・景気とは関係なく、夏は客の入りが悪い。
		通信会社（営業担当）	・冬の新商品発売前の時期は、販売面は低調になる。
		美容室（経営者）	・客足は今月は好調であるが、2、3か月先までは続かないだろう。
		設計事務所（所長）	・建設費高騰により、新設を見送っていた顧客が待ちきれない状況となっている。
		悪くなる	衣料品専門店（経営者）
企業動向関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・価値のあるものは多少高くても購入する動きが強まっている。
	やや良くなる	食料品製造業（経営者）	・原材料高騰により商品単価が上昇基調であることや、品質重視の販売が少しずつ増えてきており、売上が伸びると見込んでいる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・これから秋需要が始まるので、今までよりも良くなってくる。
		鉄鋼業（総務部長）	・造船以外のスポット受注に期待感を持っている。
		通信業（部長）	・消費税増税の影響は落ち着いた。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・消費者による小売店の選別が続き、消費者ニーズを把握できている小売店しか支持されないであろう。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・海外の状況に注視する必要があるが、全体的には大きな変化はない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・太陽光や再生エネルギーの関連事業のピークはこれからであると判断している。ピークの後は必ず下降があるが、今のところ順調な受注状況を継続している。
		建設会社（経理担当）	・手持工事量は確保できているが、予算が合わない上に職人不足、資材不足による値上げ等もあり、利益が見込めない。
		建設業（経営者）	・年間の仕事量を見通せる状況になりつつあり、現状においては悪くなるとは想定していない。ただ、昨年度同様に入札不調等で腰折れする懸念は払拭できない。
建設業（経営者）		・3か月ぐらいで今の状況は変わらない。	
輸送業（支店長）		・天候に左右される貨物は扱っていないから、猛暑による特需はない。生産調整が入った場合、景気回復に時間を要する。	
金融業（副支店長）		・物価は上昇しているが、個々の収入が追い付いていない状況では景気は変わらない。	
広告代理店（経営者）		・消費税増税以降、得意先の広告費は削減が続いている。得意先へのヒアリングでは、景気回復が遅れているとの意見が多い。	
公認会計士		・顧問先からは、投資に消極的で、消費税が10%になることへの心配や懸念をもっているとの声がよく聞かれる。	
やや悪くなる	電気機械器具製造業（経理）	・主として海外市場向けの受注において微減傾向が続くと予測している。	
	輸送業（営業）	・8～10月は発送到着貨物ともに取扱物量が著しく減少する閑散期となることから、燃料価格が高止まりのまま推移すると、厳しい経営状況になる。	
	悪くなる	—	—
雇用関連 (四国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期に入るため、求人数の増加が見込まれる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費税増税分を年間広告予算から差し引いている企業が大半なので、帳尻を合わせるために8月まではある程度低調になると予想している。9月以降は動きが出てくるかもしれない。
		職業安定所（職員）	・退職者が減少し、最低賃金の増加など雇用条件の改善があれば景気に反映されるのではないかと期待している。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率は、前月比0.02ポイント上昇、前年同月比0.18ポイント上昇している。

変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・景気回復のカンフル剤となるような要素が見当たらない。 雇用に関しても、大幅に人員を増やす企業は見当たらない。
	人材派遣会社（営業）	・人材が不足していることから、企業の事業強化は消極的に感じる。
	民間職業紹介機関（所長）	・各企業とも採用については、ハローワークや求人誌など、幅広く求人活動を行っているが、これまでは少なくとも2～3名の応募はあったが、最近ほとんど応募がないという声を聞く。
やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・求職者不足が深刻な問題になってきており、求人とマッチングできるスタッフを確保できない。
	求人情報誌（営業）	・企業の人材不足が続き、景気が良くなる見通しが立たない。
悪くなる	—	—